

# 愛のある丘陵都市「洛西アートヒル」計画

## -京都市立芸術大学跡地計画に関する提言書- (抜粋)

本提言書は、洛西京都市立芸大跡地検討会※が、平成27年9月から約1年半にわたって、現地視察、ワークショップ、先進事例や類似施設の研究などを積み重ね、ニュータウンに隣接する大枝学区、大原野地域などとも意見交換を経て取りまとめた、京都市立芸術大学跡地利用計画案(69ページ)で平成29年4月12日京都市長に提出されました。

### 基本方針

洛西ニュータウンとの不可分性や優れた環境との調和を考慮し、洛西地域に生かされる、多様性ゆたかな計画とする。

- ①京都大学桂キャンパスと連携し、発展的施設、環境にやさしい施設を導入することにより、就労の場を創出するとともに、その前提であり住民の悲願でもある高速鉄道の実現を図る。
- ②若い人がこのまちに住みたくなるような、楽しく、文化的であり、就労の場がつけられる計画とする。
- ③西山のふもとの自然と調和し、大枝、大原野のだけのこや柿に代表される農業のブランド化等に寄与する計画とする。
- ④京都市立芸大の充実した設備や建物を生かして、若い人々に創作活動の場を提供し、コンサートなどの芸術活動によって地域との結びつきが生まれる、文化・芸術の香りのする計画とする。
- ⑤洛西地域は、今後さらなる高齢社会が予想される。高齢者の福祉とともに、人とまちのつながりの中で、将来を担う子ども達の健やかな成長に役立つ計画とする。

### 施設配置計画 (下図)

敷地内の耐震性のある既存施設や既存植栽や池等は生かし、多様な機能が相互に関連した、イタリアの丘陵都市のような、人間性あふれる魅力ある小さいまちをつくる。

- ①既存施設のうち、講堂(コンサートホール)、大学会館(資料館、展示室等)、スタジオ棟(アーティスト・イン・レジデンス+アトリエ)、旧音楽高校は、現在の場所で改修し今後とも芸術関連施設等とする。一部は、各スタジオに付随する諸施設の利用可能な、老人福祉施設、グループリビング施設とする。
- ②中央棟、アトリエ棟は取り壊し、それぞれ観光情報拠点・宿泊棟、留学生施設・ドームトリーを新設する。
- ③新研究棟、および音楽棟を取り壊したのちに新設するオフィス・ラボ棟は、IT、研究所関連施設とする。
- ④体育館は改修し、アグリショップ(農産物販売・加工施設、野菜工場等)とする。運動場は駐車場(乗用車200台+大型バス12台)とし、道の駅、レストランを新設する。
- ⑤敷地南西部の緑地は、遊びの森(プレイパーク)、散策の森として整備し、隣接して青少年活動センターを新設する。
- ⑥敷地周辺の既存の学生マンション等は、オフィス・ラボなどで働く単身者の住居や、グループリビング施設等として利用する。



※洛西ニュータウン4学区・地域の各自治連合会長及び自治連合会長推薦委員2名、計12名の委員により構成される。